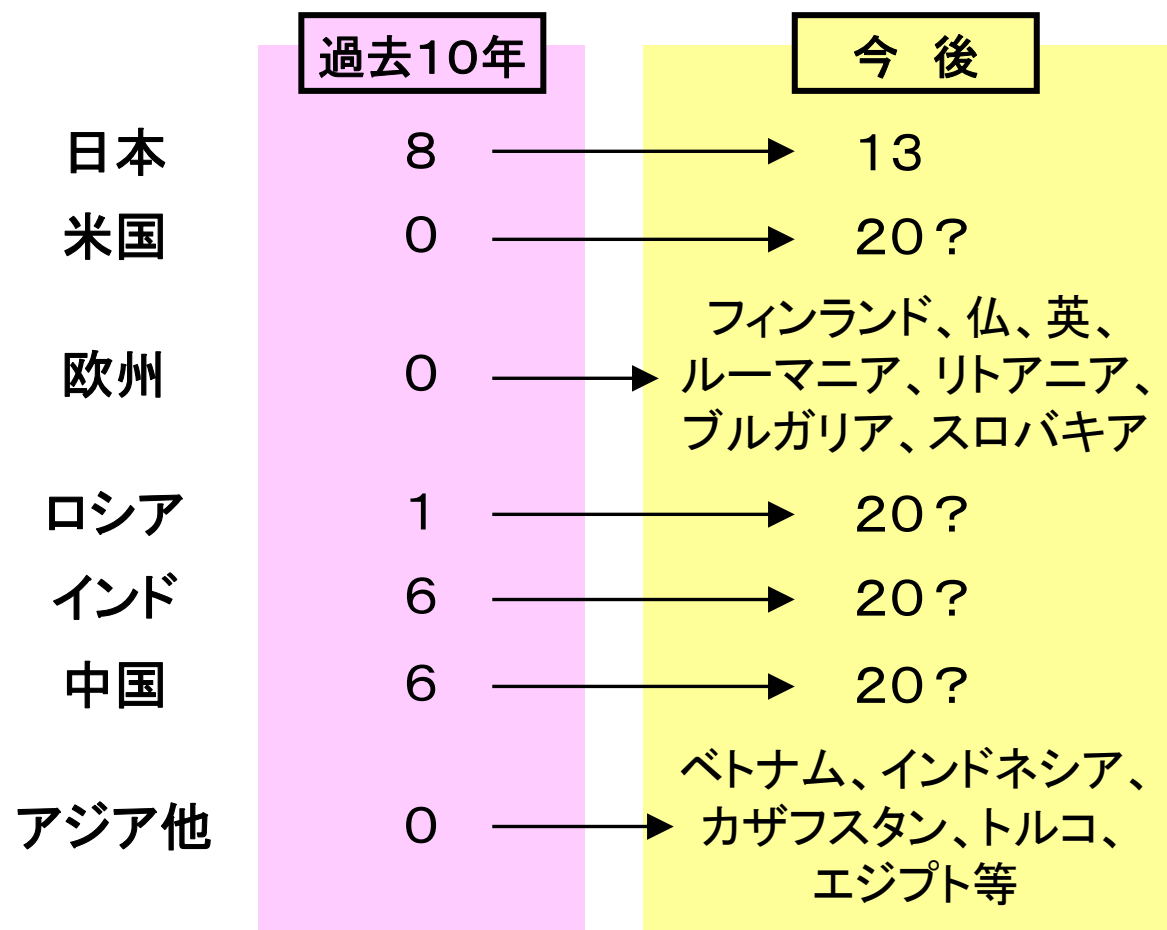


5. 世界各国はエネルギー安定供給、地球温暖化対策から 原子力回帰へ①

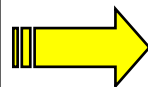
【原子力発電所の新規建設】



5. 世界各国はエネルギー安定供給、地球温暖化対策から 原子力回帰へ②

アメリカ

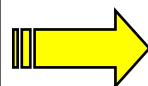
1970年代以降
新規原子力発電所建設なし



30年ぶりに新規原子力発電所建設へ

フィンランド、イギリス

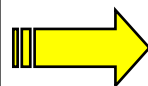
チェルノブイリ事故（86年）以来
原子力に否定的



原子炉新規建設へ方針転換

中国、インド、ロシア

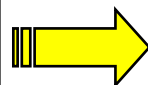
原子力発電極くわずか



各々20基以上の新設計画

スウェーデン、スイス

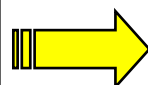
チェルノブイリ事故後、脱原子力の
国民投票



現在でも電力の太宗を原子力に依存
（スウェーデン約半分、スイス約3分の1）
脱原発期限が来る度に延長の国民投票

国際エネルギー機関（IEA）

これまで原子力をタブー視



2006年末、初めて原子力の役割を
積極的に評価

5. 世界各国はエネルギー安定供給、地球温暖化対策から原子力回帰へ③

➤ 原子力反対派からも地球環境問題の観点から原子力の見直しの動き

・ ラブロック博士（ガイア理論の提唱者）

「原子力のもたらす脅威など取るに足りないものだ。再生可能エネルギーは聞こえはよいが、今のところ効率が悪く高くつく。将来性はあるものの、非現実的なエネルギーを試している時間は今はない。私は原子力を、今使用すべき唯一の特効薬と考えている。」

・ パトリック・ムーア氏（グリーンピースの共同創設者）

（原子力推進に変更した理由について問われたのに対し）

「（反対派は）科学的根拠を持たずに反対を打ち出すばかり。エネルギー問題では、原子力も化石燃料もダメ水力もダメ。再生可能エネルギーだけにすべきだと言う。しかし簡単な算数ができれば実現が無理なのは明白。」